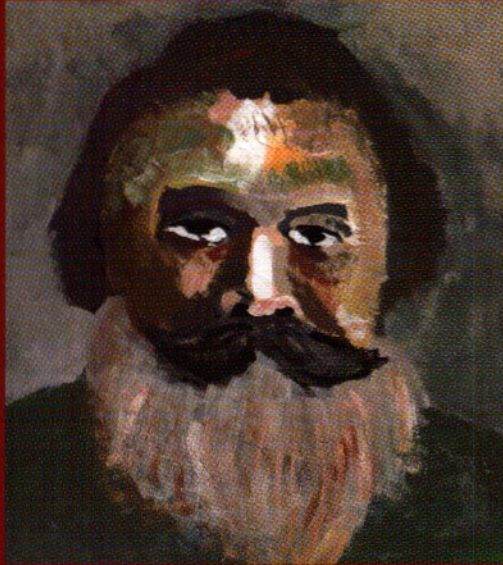


京都フィロムジカ管弦楽団

第40回 定期演奏会

シューマン
序曲『マンフレッド』

シャブリエ
田園組曲



Johannes Brahms



Arnold Schönberg

ブラームス (シェーンベルク編曲) ピアノ四重奏曲第1番・管弦楽編曲版

前売券:1,000円 (当日券:1,200円) 全席自由席



文化で滋賀を元気に!

京都芸術センター
制作支援事業



京都芸術センター

2016年12月25日(日) 午後1時開場・2時開演

滋賀県立 びわ湖ホール 大ホール ロビーコンサートを開催 (1時15分より)



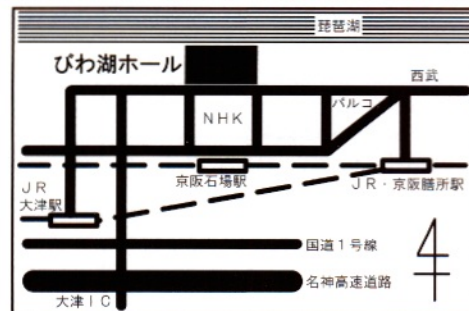
指揮：遠藤 浩史

客演コンサートミストレス：馬淵 清香

・乳幼児等就学前のお子様のご同伴、ご入場は固くお断りいたします。

・係員の指示に従って頂けない場合はご退場いただくことがあります。

【後援】
滋賀県
滋賀県教育委員会
大津市
大津市教育委員会
NHK びわ湖放送
株式会社ZTV滋賀放送局



京阪・石場駅より
徒歩約3分

JR・大津駅より
バス約7分

JR/京阪・膳所駅より
徒歩約15分

名神高速・大津ICより
約10分

【チケット取り扱い】

- びわ湖ホール2階チケットセンター(窓口販売のみ。お電話での予約はできません)
10:00~19:00、火曜日休館(祝日の場合は翌日) TEL:077-523-7136
- びわ湖大津観光案内所(石山駅077-534-0706、堅田駅077-573-1000)
- 京都芸術センター(窓口販売のみ10:00~20:00)
- JEUGIA(三条本店3階、APEX弦楽器)

【電話、WEBによるチケット予約先】

070-6506-4032 または ticket@kyotophil.com

ホームページ <http://www.kyotophil.com/contact.html>

ブラームス作曲ピアノ四重奏曲第1番は、作曲者若き日の情熱的な作品で、彼の交響曲には見られない、赤裸々な感情の発露と民族的な荒々しいリズムが魅力です。この室内楽の傑作を、20世紀を代表する作曲家・シェーンベルクが管弦楽用に編曲した作品を、フィロムジカが今回取り上げます。シェーンベルクは12音技法など前衛的な音楽理論を編み出したことでも知られますが、彼の音楽の基調にはドイツロマン派音楽への強いあこがれがありました。この編曲作品もブラームスに内在するロマンティズムをいっそう強調しています。フィロムジカは直近の演奏会で編曲によって生まれた管弦楽作品を多数演奏し、編曲作品ならではの美感の表現を追求してきました。その経験が大いに発揮されることでしょう。

指揮は、この奇跡的な管弦楽の傑作を熱愛する遠藤浩史氏。4回目の共演となるフィロムジカとの相性も良く、忘れることのできない熱演が繰り広げられるに違いありません。

また、オープニングには、ブラームスに最も強い影響を与えた作曲家・シューマンの傑作『マンフレッド』が演奏されます。ドイツ文学の巨人・バイロンの同名の戯曲に靈感を得て書かれた曲で、悩み自省する音楽は確実にブラームスにも受け継がれています。師弟の音楽を聴き比べられる、魅力的なプログラムと言えましょう。

さらに、これらドイツ音楽の傑作2曲の間に、フランス音楽珠玉の逸品・シェブリエ作曲『田園組曲』が演奏されるのも楽しみです。遠藤氏とフィロムジカは、珍しいデュカス作曲の交響曲をはじめ、フランス音楽でも名演を重ねてきただけに、大いに期待されます。

指揮 遠藤 浩史 (えんどう ひろし)

大阪生まれ。大阪音楽大学ピアノ科を経て、桐朋学園大学オーケストラ指揮専攻科に学ぶ。これまでに指揮を、小澤征爾、尾高忠明、秋山和慶、黒岩英臣、小松一彦、岡部守弘の各氏に、ピアノを、山本瑛子、梅本俊和、山田朋子氏に、二重奏及び室内楽を、中山朋子、間宮芳生、江藤俊哉、金昌国の各氏に、作曲を、三善晃氏にそれぞれ師事。

1992年、南スイスのルガーノで行われた「マスタープレイヤーズ講習会」においてマスタープレイヤーズオーケストラを指揮し高い評価を得ると共に、R. シューマッハー氏により指導を受ける。1996年7月には、ソノバトヘイ（ハンガリー）で行われた国際バルトークセミナーにてファイナルコンサートの指揮者に選ばれサヴァリア交響楽団を指揮し絶賛を博す。1999年8月には、ウィーンとブダペストで行われた「日独楽友協会指揮者セミナー」にてK.レーデル氏に師事。

エレクーンアンサンブルによる電子オーケストラとの共演も積極的に取り組み、特にピティナピアノコンペティション協奏曲部門や東京六大学ピアノコンサートを含む各種演奏会の指揮を担当した。また演奏頻度の少ない作曲家の作品も積極的に紹介することにも力を注ぎ、1995年にはP. マッカートニーのクラシック音楽の分野の大作「リバプール・オラトリオ」を、2005年には、エストニアの作曲家であるエドアルト・トゥッピンの交響曲第4番「叙情」（管弦楽：京都フィロムジカ管弦楽団）を日本人指揮者として初めて指揮し大反響を呼んだ。

1999年11月11日、オーチャードホールにて新星日本交響楽団（現：東京フィルハーモニー交響楽団）を指揮し絶大な評価を得、その模様はNHK、スカパーフェクTVでオンエアされ、また「音楽の友」をはじめとするさまざまなメディアにて、賛嘆の記事が寄せられた。2004年12月9日、ロンドン、バービカンホールにてイギリス室内管弦楽団を指揮し大成功を収め、海外メジャーデビューの第一歩を踏み出した。これまでにイギリス室内管弦楽団、群馬交響楽団、関西フィルハーモニー管弦楽団、新星日本交響楽団（現：東京フィルハーモニー交響楽団）東京ニューシティ管弦楽団、日本新交響楽団（現：東京ユニバーサルフィルハーモニー管弦楽団）、東京合唱協会をはじめ、たくさんのオーケストラや合唱団を指揮、また、ウィーン・ザイフェルト弦楽四重奏団、榎本大進（ヴァイオリン）、橋本杏奈（クラリネット）、エリザベート・ガンター（クラリネット）、ダリオ・ボヌッチェリ（ピアノ）、マインハルト・プリンツ（ピアノ）他、多くの世界的アーティストとも共演している。さらには門田展弥氏のクラリネット協奏曲第1番をイタリアの巨匠、ミケーレ・インツェンツォ氏をソリストに迎え世界初演を指揮した。

最近では指揮者活動だけでなくとどまらず、指揮教室でのレッスン、また「究極の楽器・指揮」（ヤマハホール）、「指揮者側からみたベートーヴェンの第九交響曲の魅力」（羽村市）などの講演活動も活発に行っている。2015年9月より、ヘースティングス国際作曲音楽祭（イギリス）の首席指揮者に就任、門田展弥氏のオペラ「OTOHIME」管弦楽版世界初演を指揮、オスカー賞受賞作曲家でイギリス作曲界の重鎮、スティーヴン・ウォーベック氏の「コレリ大尉のマンドリン」を氏自ら弾かれたアコーディオンと共演、計3回のコンサートを指揮して、数々の世界初演作品を紹介し大成功を収めた。

現在、ヘースティングス国際作曲音楽祭首席指揮者、東京合唱協会指揮者、日本演奏連盟会員。

管弦楽 京都フィロムジカ管弦楽団

1996年創立。知名度の低い傑作に光を当てる斬新な選曲を身上としており、日本初演・関西初演も多く手がける。遠く北海道や九州からも聴衆が駆けつけるなど、その姿勢は全国的に注目されている。また、若々しい熱気を前面に出した激しい演奏に定評がある。年2回の定期演奏会のほか、依頼を受けての演奏会も精力的にこなす。特定の母体を持たない珍しいアマチュアオーケストラで、団員の本業や出身地は様々であり、東北や東海など遠方在住の参加者もいる。学生オーケストラの経験のない人や大人になってから楽器を始めた人など楽器歴も様々に異なる奏者たちが集って音楽を作り上げている。団名の「フィロムジカ」は、「音楽を愛する」という意味の造語である。

新入団員大募集中

～私たちと一緒に演奏しませんか？ お気軽に見学にお越しください。団員一同お待ちしております。～

●募集パート ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス (ヴァイオリン・ヴィオラ急募!!)
オーボエ・クラリネット・ファゴット・トロンボーン / 打楽器 ※打楽器は諸条件について要相談

(参加資格) 練習に出席できること。年齢制限はありません。学生の参加も歓迎します。

(練習日時) 毎週日曜日(午後1時～午後5時)、春と秋に練習合宿(大津市内)

(練習場所) 京都芸術センター、河原町丸太町、伏見区など京都市内各所のほか、大津市など。

(諸費用) 活動費: 3,000円/月(学生は1,000円)、

演奏会参加費: 20,000～30,000円(初回参加は半額、学生は10,000円)

Webサイト(<http://www.kyotophil.com/>)では、過去の演奏曲も紹介しております。是非一度ご覧ください。

入団・見学に関するお問い合わせ先 E-mail: recruit@kyotophil.com

<お知らせ> 京都フィロムジカ管弦楽団 第41回定期演奏会: 2017年6月25日(日) / 会場: 大津市民会館